国重要文化財

能登復興の曙光へ

曹洞宗

大本山總持寺祖院



總持寺祖院の歴史



鎌倉時代の半ば、元亨元年（１３２１年）に、太祖瑩山禅師によって開かれました。以後、二祖峨山禅師や五哲と呼ばれる、峨山禅師のお弟子様を中心に、日本曹洞宗の中心道場として発展してきました。明治３１年（１８９８年）の大火後に横浜鶴見に大本山が移転し、祖廟として再建されました。平成１９年の地震で被災し１４年の歳月をかけて復興するも、令和６年の能登半島地震で再び甚大な被害を受けました。その修復には更に十年以上の長い年月が見込まれますが、能登復興の「曙光」として、地域と共に復興へ歩みます。

お寺の見どころ

境内には多くの花や樹木が植えられ、四季を通じて楽しめます。中でも中庭と荘厳な伽藍とのコントラストはすばらしく、春は桜やツツジ、初夏は新緑の木々、秋はもみじやイチョウが見頃になります。また冬の景色もすばらしく、モノトーンの風景は水墨画のようです。







国指定重要文化財

令和６年１２月に主要な１６棟の伽藍が国の重要文化財に指定されました。これは一所有者として石川県内最大の棟数になります。地震により被害を受けた伽藍は順次、保存修理工事が行われます。











曹洞宗 大本山總持寺祖院
〒927-2156　石川県輪島市門前町門前 1-18 甲
Tel.0768-42-0005　Fax.0768-42-1002　https://noto-soin.jp/